

TGM

ガラス・資材リフト

TGM（東京都千代田区、弘中崇社長、03・6261・1260）はガラス・資材の施工、重量物搬送機器の新しい選択肢として、日本市場へ初展開した、ドイツの施工リフトメーカー、ビーノルト・リフト（Wiensold LIFTTE）社の国内正規代理店として取り扱いを始めた。人手不足が深刻化する中、重量物の搬送、設置作業の省力化と安全性向上が急務となっている。ビーノルト・リフト社の施工リフトは狭小施工現場での施工効率を大幅に改善するなど、現場課題に対する新しいソリューションとして日本市場での普及が期待される。海外市場での実績を踏まえ、日本の施工環境に適したモデルの提案、アフターサポート体制の整備を進めている。詳細な仕様は機種によって異なる（要相談）。

狭小施工現場で課題となる搬入性に強みがあり、エレベーターでの移動が可能なコンパクトな設計に加え、組み立て式

施設内の施工などスペー

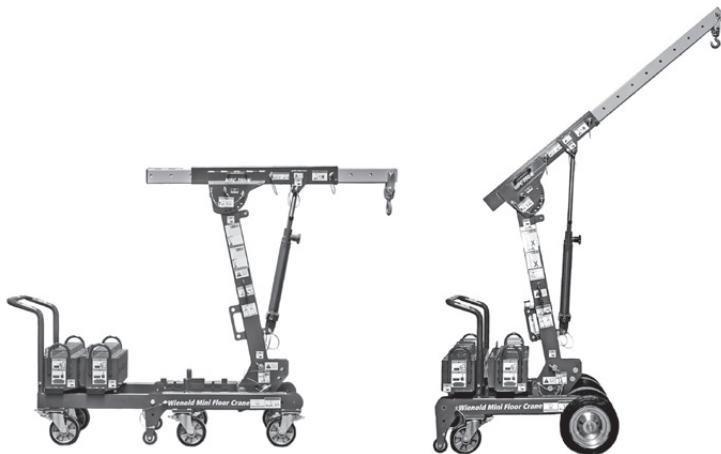
スの制約が大きい現場での活用が期待される。

特にガラス・資材用施

工リフト「GML500

00+」は搬送可能な重量

（可搬重量）が500キロ、持ち上げ可能な高さが8・8メートル。「GML800+」は可搬重量が800～900キロ、持ち上



上はガラス・資材用施工リフト「GML500+」（左）と「GML800+」、下はミニクレー

ン「MFC750/K」（左）と「MFC750/Ks」（右）

は1987年にドイツで創業。ガラス、資材施工リフトの専門メーカーとして独自の開発を続け、欧州を中心に世界で高い評価を得ている。ドイツ国内に五つのカスタマーサービスセンターを開設。英國、フランス、オーストラリア、カナダ、香港などのレンタル市場で高いシェアを誇る。

び可能な高さが3・3メートル、電動デルト、回転機構、360度旋回、電動テレスコピックブーム（伸縮する構造）など、正確に位置決めができる機構を搭載する。

ニクレーンの「MFC750/K」（可搬重量900キロ、持ち上げ可能な高さ2・9メートル）、「MFC750/Ks」（同380～745キロ、同2・9メートル）はつり上げタイプ。「MFC750/K」は長いアウトリガーブーム、より広い支持幅を必要とする作業環境に対応。「MFC750/Ks」は短いアウトリガーブームで、限られたスペースでの使用に適している。

